

公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク 第53回理事会議事録

(写し)

1. 招集年月日 2026年8月 3日(月)
2. 開催日時 2026年9月25日(金) 10時30より12時00分まで
3. 開催場所 徳島市昭和町3丁目35-1
わーくぴあ徳島(徳島県労働福祉会館)5階502会議室
4. 出席した理事の氏名
石堂 佳子・板東 豊彦・森本 佳広・杉本 友好・木下 慎次・成谷 雅弘・藪下 武史
飯田 博司・黒下 耕司・島 和久・大谷 竹人・川口 誠二・兼松 文子・佐藤 晃子
好野 祐司・吉田 益子・吉田 幸司(以上17名)
5. 欠席した理事の氏名
加藤 幸一・加渡 いづみ・岡山 千賀子(以上3名)
6. 出席した監事の氏名
米澤 和美・真鍋 恵美子・廣瀬 克己(以上3名)
7. 欠席した監事の氏名
無し(以上0名)

第53回理事会開会にあたり、石堂佳子理事長が定款第38条の定めにより議長となった。

本日は理事20名中17名が出席しており、公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク定款第39条に定める理事会成立要件(出席理事が過半数以上)を満たしていることから、理事会が成立している旨を議長が宣言した。

なお、監事3名中全員が出席していることが報告された。

続いて石堂佳子議長より、次の点について挨拶・報告があった。

① 最重点課題のひとつ学童保育について、4月から新町学童クラブの運営開始。徳島市から学童保育の運営基盤強化推進業務の受託。調査結果をもとに、市内学童保育の統一基準案などを報告書としてまとめる。現場の声を反映した提案を目指す。

② 6月開催の30周年キックオフ記念講演会・交流会への参加者に謝意を表明。記念事業として9月13日のあいあいファミサポフェスティバル(お仕事体験)を開催し、多くの笑顔が見られた。企業、労働団体、行政、NPO、地域とのつながりを今後も大切にしていく。

③ 社会課題・自然環境への取り組み取り組みについて、ハートフルゆめ基金とくしまは、休眠預金活用事業の資金分配団体への採択を目指し、3回目の挑戦。もうひとつの最重点課題として、吉野川河口域のラムサール条約湿地登録に向けた取り組みも推進。自然保護にとどまらず、自然の恵みを暮らし、文化、地域、経済に生かして次世代へつなぐ「ネイチャーポジティブ」の考えを重視する。

④ 職員の処遇について、利用者に寄り添うサービスの維持には、職員が安心してやりがいを持って働ける環境が必要と強調。最低賃金の上昇、物価高、人材確保などの厳しい状況を踏まえ、10月からの対応には至らなかったものの、来年4月に向けて財政や各事業の状況を見極め、処遇改善やベースアップを積極的に検討する考えを示した。

新しい事業が動き始める一方、実施を通じて課題も見えてきたと説明。今回の理事会を、下半期の取り組みの確認だけでなく、今後の課題や財団のあり方を理事らと考える機会とし、率直な意見や提案を求めた。

以上の挨拶・報告の後、議事に入った。

8. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

《第1号議案》2026年度上期事業進捗状況並びに下期重点課題の取り組み承認の件

石堂佳子議長より、2026年度上期事業進捗状況並びに下期重点課題の取り組み承認の件について審議いただきたいと述べ、杉本友好専務理事より、別紙議案書に基づいて提案を行った。

石堂佳子議長から、質問・意見を諮ったところ、吉田益子理事より、指定管理事業の紅葉温泉のボイラーの燃料について質問があり、杉本友好専務理事より、A重油で行っていると説明。環境保護的観点からは、現在故障中の薪ボイラーでの運用が理想なのだが、課題として行政へ要望している旨、共有した。その他、特に質問・意見はなく、議案採決を求め、2026年度上期事業進捗状況並びに下期重点課題の取り組み承認の件について全員挙手にて賛成し異議なく承認した。

《第2号議案》2026年度補正予算策定承認の件

石堂佳子議長より、すでに承認いただいている予算について、新たな事業を受託したこと等による補正予算を策定したことから承認を願いたい旨告げ、杉本友好専務理事より別紙議案書に基づいて詳細に説明を行った。

石堂佳子議長から、議案について質問・意見を諮ったところ、特に質問・意見はなく、採決を求め、全員挙手にて賛成の上異議なく承認した。

《第3号議案》就業規則の給与規程の改訂について

石堂佳子議長より、就業規則の給与規程の改訂について、を議題としたいと述べ、杉本友好専務理事より、議案書に基づき提案を行った。石堂佳子議長から質問・意見を諮ったところ、特に質問・意見はなく、採決を求めたところ、全員挙手にて賛成し、異議なく承認された。

《第4号議案》建物賃貸借契約に係る連帯保証人継続について

石堂佳子議長より、建物質貸借契約に係る連帯保証人継続について、を議題としたいと述べ、杉本友好専務理事より、議案書に基づき提案を行った。石堂佳子議長から質問・意見を諮ったところ、特に質問・意見はなく、採決を求めたところ、全員挙手にて賛成し、異議なく承認された。

報告事項

《第1号報告 理事の補欠選任に係る評議員会のみなし決議の結果について》

石堂佳子議長より、理事の補欠選任に係る評議員会のみなし決議の結果について、を第1号報告としたいと述べ、杉本友好専務理事より、議案書に基づき報告を行い、全員の承認を得た。

《常勤役員業務執行状況について》

常勤役員業務執行状況について、それぞれの挨拶・報告提案の冒頭、石堂佳子理事長、杉本友好専務理事の順番で、2026年度上期の業務執行状況について報告を行い、全員の承認を得た。

《その他》

最後に感想・意見を求めたところ、以下の発言があった。

- ・板東豊彦副理事長からは、理事会初の出席にあたり、勤労者福祉ネットワークが、子育て関連事業をはじめ、しっかりと事業をされていると評価をいただいた。
- ・成谷雅弘理事からは、徳島市からの学童の調査事業について単年度限りの事業かと確認があったうえで、今年度末の報告に期待が寄せられた。
- ・飯田博司理事からは、商工会議所という立場で、業種を問わず人材確保といった面で、福利厚生サービスなどを含め、勤労者福祉といった観点が重要となってくる。我々もそういう立場で協力をしたい。
- ・島和久理事からは、労働金庫の立場で9月のあいあいファミサポフェスティバルへの出席参加の際、お仕事体験を通じて、親子に喜んでいただいたこと、また、参加した各支店の新入職員から、参加して大変よかったという好評を得たとの報告。
- ・川口誠二理事からは、あわ〜ず徳島のスマホアプリのダウンロード方法について確認。
- ・佐藤晃子理事からは、県の事業「徳島フューチャーアカデミーDX」の周知にネットワークが協力したことへの謝意があり、参加者が成功体験を重ね、自信をつけられる機会の重要性が語られた。
- ・吉田益子理事からは、アフリカで水資源を活用した緑化・灌漑に取り組む新設団体の紹介があり、気候危機や各地の災害、国際情勢とエネルギー供給への懸念も示された。また、ホルムズ海峡のみならず、バブ・エル・マンデブ海峡の危機も深刻化しており、今後本当の石油危機となる懸念もあるが、出席者の皆様のお話が伺えて元気をいただいたとの感想をいただいた。

- ・吉田幸司理事からは、子育て支援、とりわけ孤立や不安を抱える保護者への支援の重要性が指摘され、ファミサポでの家事支援サービスの拡大に期待。
- ・米澤和美監事からは、監事の立場で、数字を見るようになり、事業拡大には資金が必要であると協力を呼びかけた。また、学童保育の充実をめざす会の一員として徳島市がモデルとなるよう頑張る旨決意を述べた。
- ・真鍋恵美子監事からは、企業従業員アンケートは1,000人超の回答を得ており、事業所が従業員のニーズを把握する資料として有用との評価があった。結果を広く周知してはどうかと要望があった。
- ・廣瀬克己監事からは、子育て・子育て支援の充実について、非常に意義深い取り組みとして高く評価するとともに、感謝と敬意が述べられた。また、議案書の「はじめに」を毎回興味深く読んでおり、特に今後の金利動向が経済に与える影響について注視しているとの発言があった。
- ・好野祐司理事からは、学童保育の充実について、将来的に公益・社会福祉法人などが運営を担える仕組みを整え、運営体制の安定につなげる構想を共有。また、勤労者福祉ネットワークも構成組織の一つである、とくしまピースネット80の取り組みについて、自治体意見書の取り組みや、徳島大空襲資料館の整備・資料収集、被爆関連の取り組みなども共有された。
- ・兼松文子理事からは、県内で暮らし働く外国人が増え、労働相談は一昨年の252件から、今年は8月末時点で331件に増加したとの報告があった。就労、在留資格、ハラスメントなど相談内容は多岐にわたり、対応が追いつかない状況もある。国際交流協会や地域団体との連携、交流会や日本語支援を通じ、外国人と地域住民のつながりを広げる方針が述べられた。
- ・大谷竹人理事からは、人口減少に伴う業務効率化の必要性を背景に、生成AIを用いた資料作成やアンケート集計の研修を計画している事例が紹介された。プロンプト作成の指導を受ける予定で、厚生労働省の人材開発支援助成金についても、2026年末までの活用が呼びかけられた。
- ・黒下耕司理事からは、デジタル化やAIの進展により、コストパフォーマンスやタイムパフォーマンスが重視される社会となる一方で、今、人とのつながりや思いやり、優しさといった価値が改めて見直されている。そうした中、勤労者福祉ネットワークが先見の明かつ幅広く事業に取り組まれていることは、これからの社会において大きな意味を持つものと感じている。賀川豊彦の思いを受け継ぎながら、人が生きる価値を感じられる「オアシス」のような存在として期待しているとの発言があった。。
- ・薮下武史理事からは、今回初めての出席である旨の挨拶があり、これまでの事業等を通じた支援・協力に対して謝意が述べられた。今後も、地域の小規模事業者への支援に向けて、関係機関と連携しながら取り組んでいきたいとの発言があった。
- ・木下慎次理事からは、日頃からの勤労者の福祉の向上と、各町村の事業の円滑な推進への協力、尽力への謝意が述べられた。

- ・森本佳広副理事長からは、徳島県地震防災権利会議の解散を受け、労福協として徳島被災者支援プラットフォーム（TPF）への参画を予定している旨の報告があった。また、勤労者福祉ネットワークに対し、今後も防災知識の普及・促進に取り組んでいただきたいとの要望が述べられた。

すべての議事が終了したので、議長は閉会を宣した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事長及び出席監事が、次に記名押印する。

本議事録は、議事録原本である。

2026年9月25日

公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク

議 長（理事長） 石 堂 佳 子 ㊞

監 事 米 澤 和 美 ㊞

監 事 真鍋 恵美子 ㊞

監 事 廣 瀬 克 己 ㊞

※原本に議長および監事の押印あり

※この議事録は原本をもとに作成した写しです。原本は当法人事務局にて保管しています。